

ろくおん通信

第22号

1989.12.15
盲人情報文化センター
録音製作係

7年弱お世話になりました

川端正子（もと谷垣）

19号の「ろくおん通信」にありましたように、また来館なさっているボランティアの方々は、明らかな体型の変化で早くからお分かりのとおり、私はただ今妊娠中で、予定日は1月21日です。自分の年齢、体力、気力を考えますと、とても仕事を続けるのは不可能です。子供を授かれば辞めるつもりでしたし、たとえ無理をして続けたとしても満足のいく仕事はできない、迷惑を掛けるだけだと思い、退職することにいたしました。

私が退職することで多少の変化はあるでしょうが、新体制への移行も少しずつ進んでおり、製作面での影響はほとんどないと思います。むしろチーム化によってボランティアの方々同志密接になり、今までよりも、スムーズな製作システム、いいテープ図書ができるような気がしています。他人のテープを聞いて欲しい、自分の吹き込んだテープ（マスターとして完成したテープ）を時間をおいて冷静に、客観的に聞いて欲しいと折りあるごといい、個人的に校正のお願いを音訳だけをしている方にしていましたが、新体制では校正はチーム内ですということになり、これまたいいテープ図書作りの一要素になるのではないのでしょうか。校正することにより、音訳された方の調査の過程、処理の工夫、録音・朗読術の追体験ができます。音訳するだけでは出会わないケースにも、数多く出会えることとなります。このことはご自身が音訳なさる際、とても役立つことだと思えます。時間がないとか、影響されてイヤだとか、自信がないとかの理由から、当面の間、校正をなさらない方もいつか是非なさってくださいますようお願いいたします。また、校正をしなくても、視覚障害者の立場になって、せめて1巻、あるいは図表・写真などは原本を見ないでテープを聞く機会を持ってください。7年弱、毎月『文藝春秋』の編集をしていて得た結論です。ズブの素人の私が音訳とはどういうことか、どんなテープが視覚障害者にとっていいテープか分かるようになったのも、毎月40人前後の方々が吹き込んでくださった様々なテープを聞くことができたからです。

独りでいるより二人のほうがよかったと思える1年が経ち、無事産まれてくれば三人になります。いちばん小さな“家族”になります。三人になってよかったと思えるようになりたいです。4、5年は思い切り親バカをすることにいたします。今度お会いするときは以前のようにボランティアでお会いしたいと思います。それまで皆さんお元気でご活躍ください。本当にお世話になりました。とても楽しい日々でした。ありがとうございました。

係からのお知らせとお願い！

1. 音訳チームの発足について

前回の「ろくおん通(N0.21)」でお知らせしました通り、この12月より曜日別に音訳チームを編成しスタートすることになりました。音訳、校正、編集の流れもこれまでと違い少し、変更になりますのでよろしくご協力をお願いします。具体的な説明は曜日別に行ないます。

なお、チーム化にともないスタジオでの音訳ボランティアを中心に再登録を行なっておりますが、再登録のまだの方は用紙は7階にありますので早めをお願いします。

2. '90年度の世話役の方々。(敬称は省略させていただきます。)

火曜チーム：土田宏子 高木万里子 水曜チーム：工藤和子 久保洋子
木曜チーム：古谷穹子 佐久間かず子 金曜チーム：河野晃愛 山本明美
土曜チーム：藤堂麻須子 森和子 編集チーム：久保洋子 福井あつ子

以上の方々に1年間、世話役をお願いすることになりました。世話役を中心にチームによる録音図書製作体制に移行していきますので皆様のご協力をお願いします。

3. 新しい原本の打ち合せについて

Ⅰ. 原本の申し込みは世話役を通して手持ち原本を読み終える、3～4週間前から申し込んで下さい。

※ 原本は事前に全体に目を通し、相談すべき点を整理してください。

Ⅱ. 打ち合せは、当面、世話役と職員、音訳者、校正者を交えて行ないます。

Ⅲ. 原本の受渡しは職員が行ないます。

Ⅳ. 打ち合せでは音訳者が予定巻数、完成予定年月を進行表に記入して下さい。

4. 校正について

Ⅰ. 読み終えたオープンテープは「校正依頼棚」へ置き校正者に連絡して下さい。

※ 1. テープシートには必ず音訳者が校正者名を記入して下さい。

※ 2. コピー済みのオープンテープはこれまで通り編集待の棚か、編集者の棚に職員が移します。

Ⅱ. カセットへのコピーは翌週までに行い、「校正依頼棚」に校正用のカセットテープを置きます。

Ⅲ. 校正者は校正の済んだカセットテープを「校正済み棚」へ置き、校正表は作品別ファイルに綴じて下さい。

※ 但し、新しい原本に関しては3冊購入していますが、原本2冊のものもあります

ので、原本2冊のものについては職員が調整していきます。

5. 訂正について

- イ.訂正の有無の判断は原則として世話役と相談して下さい。(必要に応じて職員が調整する場合があります。)
- ロ.訂正済みのオープンテープは今まで通り、編集者の棚か、編集待の棚へ音訳者が置いて下さい。 *注意:編集者への連絡を忘れないように

6. 進行表の記入について (注意:変更点)

- イ.現在、進行表一覧表は各作品別のファイルに綴じてありますが、今後、進行状況を把握しやすいように「曜日別進行ファイル」にファイルします。記入は曜日別ファイルに記入して下さい。進行表は今までのものと同じで、記入の仕方も同じです。

7. ファイルの曜日別色分けについて

- イ.作品別ファイルの配置は今まで通り番号順に配列しますが、ファイルの背に以下のように色分けしたシールを貼ります。

火→赤色 水→水色 木→茶色 金→オレンジ 土→ピンク

朝日ジャーナルの製作体制について

録音製作 清水賢造

「ろくおん通信」第21号で朝日ジャーナルの担当をされている「グループみなわ」の米谷(こめたに)さんにジャーナル製作の苦労話なしを書いていただきましたが、紙面に都合で係りからの説明を省略した関係で、少し分かりにくかったとの声を頂きましたので、今号で補足しておきます。(声→“米谷”とかいて“みなわ”と読むの?、いつからチーム製作になった? etc)

朝日ジャーナルの音訳は、チーム製作に移行する前は音訳講習生が実習を兼ねて1年間担当していました。しかし、講習生が5~6人になったことや、「月1回の発行では情報が遅い」との利用者の苦情もあり、3年前より朝日ジャーナル専任の音訳チームを編成し、月2回発行に切り替えました。盲人情報文化センターのリクエスト図書館の音訳を引き受けてもらっている、6つのグループから1~4人ずつ担当者を出していただき、4チームで音訳しています。コピー作業は講習生が当番で毎週担当し、発送は4人の専任ボランティアが毎週木曜日に行っています。また、朝日ジャーナルは会員制にしていますので、入会金の処理や会費の督促などの事務も専任のボランティアをお願いしています。朝日ジャーナルの発行に携わっておられるボランティアは全体で35人余りにもなります。ボランティアのお名前は、毎回ワンブックで紹介していますのでグループ名のみ紹介だけさせていただきます。

音訳グループ (6録音)

えくてもあ、グループ84、ロバータ

こだま、みなわ、みち、

記事選択・編集

えくてもあ、みなわ

一校正者より

大林 緑

校正の仕事を通して、毎日いろいろなテープを、楽しみながら一所懸命聞かせていただいています。

ほとんど無校正だった頃とくらべ、マニュアルも作られ、校正、編集とチェック段階も増えて、その点でも一層よい録音図書が作られるようになってきたのではないのでしょうか。

校正をする際に誤読をチェックするのは当然ですが、その他に、そのテープ全体の仕上がり具合はどうかということ大切に考えています。その為に、校正用テープを受け取った際、始めに少なくとも一巻だけでも流して聞いて見ることにしていますが、音訳者の特徴、作家のくせ、なども含めて、全体の流れが非常に良くわかります。

(1) マニュアルに沿った録音がされているか。

ワクアナ、A、B面の始まりかた、図、表への入りかた、など。

(2) 図や表の説明は、聞いてどの程度頭に描けるか。

(3) 文章の流れかた。

などを心掛けていますが、(1)については今のところまださまざまな読み方がされているように思います。

マニュアルに固執する必要はありませんが、遵守出来るところはしてその上で原本にふさわしい、柔軟性のある処理がされればと思います。

最後に校正者からのお願いですが、校正依頼の際、調査済み、推測読み、出典などを記入した調査表を是非付けていただきたいこと、そして、音訳、校正、編集の三者が、時には原本を前に話し合う機会が持てたらと願っています。

●録音製作係のアルバイトが決まりました。

福島光枝さん。26歳。

川端の後任にアルバイトを募集していましたが、決まりましたので紹介します。仕事は来年1月9日(火)からになります。よろしくお願いします。

●一日程一

「近点協録音製作委員会」	12月20日(水)	10:30~14:00
「第2回、世話役連絡会」	1月11日(木)	13:00~
「コンピュータの音訳研究会」	1月17日(水)	10:00~12:00

編集後記 いつも長い足で、忙しそうに歩きまわっておられる川端さんを見て、仲間達と“やめられたらどうなるだろう”と話し合ったことがあります。それがいよいよ現実のこととなり心細いことこのうえもありません。

川端さん長い間お世話様になりました。一日も早く新しい製作体制に慣れ、協力してよりよい録音図書を作りたいと思っています。いつか“子育て”が終わったら、ちょっと7階をのぞいてみて下さい。すばらして録音図書が沢山出来ています。お元気で。(土田)